

＜今日の説教のポイント ヨハネによる福音書 19 章 16-30 節＞
聖書の御言葉からイエス様の十字架の死の深い意味を読み取りたい。

1 4つの福音書全てに通じる「引き渡す」が持つ意味の深さ。

主のご受難の出来事を記す 4 つの福音書全てにおいて「引き渡す:パラデイドーミ」という語が繰り返し使われています。祭司長や人々がイエス様をピラト引き渡す(18:35)、ピラトがイエス様を人々に引き渡す(19:16)、そしてユダがイエス様を「裏切る:原語は同じ!、13:21,11:21」と。しかし、この語「引き渡す」がイエス様が十字架の上で亡くなられる時の記述で、やはり 4 つの福音書で用いられているのです、「息を引き取られた:(直訳) 霊を引き渡された(神様に!)(19:30)と。イエス様を死に引き渡す出来事は、神を疎んじ己を立て、ついには神を殺してしまう私たち自身の罪の姿をそこに見て取らなければならない出来事です。しかし同時に、その出来事が神の御子イエス様自らがご自分の命を神様に引き渡された出来事だったのです。それ以外に贖う方法のない私たちの罪を赦すためにです。しかし神様がそうして罪赦して下さろうとされたのですから、どんな罪人もそれによって赦されるのだと信じていい、信じなければならない、神様の憐みの大きさを見て取るべき、驚くべき神様の恵みの出来事なのです。

2 十字架の出来事の意味を解くための鍵、旧約聖書、詩編 22 編。

詩編 22 編がこのイエス様の十字架の死の出来事の意味を解く鍵であることは 4 つの福音書とも示していますが、明確に示しているのがヨハネ福音書です(「聖書の言葉が実現するためであった」(20) 詩編 22 編を指している)。大事なことは、一見神様への信頼の揺らぎを示すかのような言葉で始まる詩編 22 編が神様への篤い信頼を示す信仰告白で終わるといことです。イエス様はそのことを知っておられた上で、この詩編を十字架の上で叫び出されたのです(マタイ 27:46、マルコ 15:33)。叫びの結末、つまり詩編 22 編の最後の内容が大事なのです。

3 母親に対するイエス様の不可解な二つの呼びかけを考える。

カナの婚礼の場面でイエス様は母親に対して不可解に思える言葉をかけられました(2:4)。しかし、十字架の上で語られた言葉(26-27)がこの不可解さを払拭します。教会は昔から、このイエス様の母親を思いやる姿に倣え、応える弟子は教会を指すのだ、と教えて来ました。